

R S ウィルス母子免疫ワクチンの予防接種を受ける方へ（説明書）

～よく読んでから予診票を記入しましょう～

1. R S ウィルスとは

R S ウィルスは、年齢を問わず何度も感染を繰り返します。

初回感染時には、より重症化しやすいといわれており、特に生後 6 か月以内に感染した場合は、細気管支炎や肺炎など重症化することがあります。

生後 1 歳までに 50 %以上が、2 歳までにはほぼ 100 %のお子さんが少なくとも 1 度は感染するといわれています。

2. 対象となる方

妊娠 28 ~ 36 週の妊婦で接種時に小郡市に住民票（住所登録）がある方が対象となります。

※転出日から小郡市の住民登録はなくなりますので、転出日以降の接種は、転出先の市町村へご確認ください。未確認で接種した場合は、自己負担が発生する可能性があります。

※妊娠 39 週に至るまでの間に出産を予定している場合、その 14 日前までに接種を完了することが望ましいとされています。

3. 予診票の記入について

予診票は予防接種を受けるにあたって、医師にご自分の健康状態を伝える大切な用紙です。内容をよく読み、治療中の病気や飲んでいる薬など、もれがないように記入しましょう。心配なことがある場合は医師に十分相談しましょう。

予診票の下にあるご本人の署名は、医師の診察の結果を聞いてから記入します。

4. R S ウィルス母子免疫ワクチンとは

R S ウィルス母子免疫ワクチンとは、妊娠中に接種を行うことでお母さんの体の R S ウィルスに対する抗体を増やします。その抗体が胎盤を通して胎児に移行することで、生まれたお子さんが R S ウィルス母子免疫ワクチンによる下気道感染に対して、生後 6 か月まで予防効果を得られる母子免疫ワクチンです。

生後 6 か月までの有効性が検証されていますが、生後 6 か月以降の有効性は確立していません。

接種後 14 日以内に出生したお子さんにおける有効性は確立していません。接種後 14 日以内に出生した場合、胎児への抗体の移行が十分でない可能性があります。

5. R S ウィルス母子免疫ワクチンの効果

妊娠中のワクチン接種により、お母さん自身が免疫を作ることで、生まれてくるお子さんの R S ウィルスによる下気道疾患を予防します。

6. RSウイルス母子免疫ワクチンの安全性

ワクチン接種後、以下のような副反応がみられることがあります。また、頻度は不明ですが、発疹、じんま疹、ショック、アナフィラシーがみられることがあります。

接種後に気になる症状を認めた場合は、接種した医療機関へお問い合わせください。

※副反応の発現割合

主な副反応の発現割合	アブリスボ（ファイザー社）
40%以上	注射部位の疼痛（40.6%）
30%以上	頭痛（31%）
20%以上	筋肉痛（26.5%）
10%未満	注射部位の紅斑・腫脹
頻度不明	発疹、じんま疹、ショック、アナフィラキシー

7. 他の予防接種との同時接種について

医師が特に必要と認めた場合は、他のワクチンと一緒に接種することができます。

8. 予防接種後の注意点

ワクチンの接種後30分程度は安静にしてください。また、体調に異常を感じた場合には、速やかに医師へ連絡してください。

接種部位を清潔に保つようにしてください。接種当日の入浴しても問題ありませんが、体を洗うときに接種部位をこすらないようにしてください。

他の医師を受診したり、他のワクチンを接種したりする場合は、必ずこのワクチンを接種したこと医師または薬剤師に伝えてください。

9. 予防接種健康被害救済制度について

厚生労働省が、予防接種法に基づく定期の予防接種による健康被害と認定したときは、健康被害救済制度の給付の対象となります。

定期の予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障ができるような障害を残すなどの健康被害が生じた場合には、予防接種を受けた医療機関または小郡市健康課（予防接種を受けた時に住民票を登録していた市町村）までお問い合わせください。

令和8年1月